

# 源氏御談義

(千鳥抄)(上)

は し が き

本書は、四辻善成が『源氏物語』を至徳三年七月二十六日から嘉慶二年十一月三十日にかけて講義したものを、その席に列した平井相如が、その後また善成に不審をききただして、二帖にしるしたものである。『千鳥』とも称せられるのは、善成の『河海抄』との縁による。

ここに翻刻したのは、倉野憲司博士所蔵にかかる写本全一冊である。同本の装幀、その他は左のようである。

装幀 中形本。縦約二九糎、横約二〇糎。改装元表紙茶無地。

外題 源氏物語御談義(後筆)

内題 源氏御談義

奥書 平井相如跋文、藤齋(三条公敦)奥書、兼載奥書、龍翔院

(三条公敦)奥書。

丁数 墨つき六三丁(他に遊紙一丁)。

行数 本文一一行、奥書跋文一〇行。

本文 かたかなまじり、処々漢字かなに声点を施す。

印記 倉野蔵書の朱方陰刻印記。

外題は後筆であり、内題により『源氏御談義』と称すべきである。『源氏物語千鳥抄』の名で、続群書類従巻五百十六に翻刻されている略本とは、かなり内容を異にしている。早く橋本進吉博士は「源氏物語千鳥抄について」(国語と国文学・大正一四年一〇月号)において、次のごとく指摘し、続群書類従本によるべからざるをとかれた。

源氏物語千鳥抄は、南北朝に出来た源氏の註釈書であつて、巻の順に難解の語句を摘出して簡明な解釈を加へたものである。

(中略) 伝本は甚少い。ただ続群書類従に收められた本だけは、近年続類従が刊行せられた為容易に得る事が出来るけれども、この本は甚悪い本で、原著の面目を失つたところが少なく、為に著者や伝来などもわからなくなつてゐるのである。

この倉野本は、続群書類従本に対して広本の立場にあり、前述論文において橋本博士が「よく原本の面影に伝へてゐると考へられるのみならず従来知られられなかつた事実のこの本によつてはじめて明になるものもある」と解説された加持井宮旧藏本と、日付、跋文奥書等、極めて親縁の關係にあるものと認められる。筆写年代も江

戸初期を下るまい。

加持井宮旧藏本が焼失した今日、かたかな本（広本）系統の一善本としてここに翻刻する所以である。

なお、宮内庁図書寮本、天理図書館本（二部）等にも調査を及ぼし、これら諸本の関係を検討すべきであるが、他日にまわりたい。  
（図書寮本の最後に存する享祿四年、慶長元年の二つの奥書は、倉野本にはない。）因みに、前掲加持井宮旧藏本、九州大学附属図書館本、続群書類従本、以上三本を合わせ、各巻講義の日付を比較し、その異なる部分を左に表示して、参考にする。

| 巻名   | 加持井宮旧藏<br>源氏御談義 | 倉野<br>源氏御談義本    | 九州大学<br>源氏御談義本 | 源氏物語<br>千鳥抄 |
|------|-----------------|-----------------|----------------|-------------|
| （内題） | 至徳三・七・廿六        | 至徳三・七・廿六        | 至徳三・七・廿六       | 至徳三・七・廿八〇   |
| 若紫   | （記載なし）          | 八・十九            | 八・十九           |             |
| 薄雲   | 同（十・九）          | （巻名脱落によ<br>り不明） | 同（十・九）         |             |
| 乙女   | （記載なし）          | 十・十五            | 十・十五           |             |
| 若菜下  | （記載なし）          | 十二・三            | 十二・三           |             |
| かげろふ | 嘉慶二・十一・廿九       | 嘉慶二・十一・廿九       | 嘉慶二・十一・廿三〇     |             |

なお、作者平井相如や、本書と河海抄の関係、本書の源氏物語注釈史上に占める位地等の詳細に関しては、前掲橋本博士の論文を、また宮内庁図書寮本に関しては、『図書寮典籍解題・文学篇』を参照されたい。

注 九州大学附属図書館本は、ひらがな・かたかな混用、外題内題ともに『源氏御談義』、音無文庫旧藏である。

## 凡 例

一、これは倉野憲司博士所藏本を、できるだけ忠実に活字にうつしたものである。

一、本号にはその前半を掲げ、後半は第十八号に採録する。

一、改行は原文に従はず、すべて追いきみとする。

一、抄出語句と注との間は一文字あけとする。

一、異体の漢字かな等は通用字に直し、下に（※）の印をほどこす。

一、あて字、誤字はそのままとし、下に（ママ）と注記する。（ただし、かなづかいの誤りについては別に注記しない。）

一、細字の注は、一行の場合も二行の場合も、△▽内に入れる。

一、声点は右傍左傍ともに、二点は・一点は。で示す。

一、左傍のふり漢字ふりがなは、右傍にうつし（ ）内に入れて示す。ただし声点などの関係上、語の下（ ）内の注記をもつて示すこともある。

一、ふり漢字ふりがなの声点、及びふり漢字のふりがなは、翻字の都合上、その語の下に翻字者が注記する。

一、翻字者の注を必要とする場合は、（ ）内に注記する。

一、みせけちの場合は、正字の下に消された字を「」内に入れて示す。

例 入は 人（入）

一、虫損、抹消等、原字不明の場合は、一字分を□で示す。なお原形が判読される時は、『』に入れて示す。

（古田東朔・松田 修）

至德三 七 廿六

イツレノ御時ニカト云ハ 延喜ノ御時ノ事ヲ云也 一更衣ノ事

承和天皇ヨリ始リタル事也 一更衣ハ四位ノ命婦ハ五位ノ女藏人

ハ六位V  
一 アツ・シク<sup>○</sup>トハ  
ヨハクナヤミタル<sup>○</sup>躰也  
靈運当遷ト書又旺

(❀)ノ字一ヲモアツシクトヨム也  
 一アイナウハ無愛V  
 一玉ノヲノ

コミコハ源氏生給フ事ヲ云也▽  
一メツラシト云起ハ  
神功皇后新

羅征伐ノ時今度ノ軍可勝ハ魚此鈎ニ付テアカレトテ御裳ノスソヲト

キテツリノ絲ニシテ松浦川ニ入ラル、時ヤカテ鮎食付テアカル時メ

ツラシト仰ラル、ニ依テ本ハ此川ヲハメツラ川ト云ケル也珍（三）ト

云詞此時ヨリ始ル一マウノホルマイリノホル也参昇ト書也

一 後涼殿 一五六日ト書タレトモイツカ六日トヨム也 一シ

ホウハ修法也、延暦廿四年、傳教弘法大師入唐ノ間ニ於紫宸殿田

澄大師五仏頂ノ法修畢御修法初也  
一 ユキカウ 交タウ音加卜書行帰也

一ヨロシキ 諸事中品ノ事ヲ云也  
一ヲタキ愛宕ト書  
一人ノ死

タルヲハ昔皆陵ニコメケルト云々火葬(※)事ハ文徳天皇ノ御時ヨリ始也

一 百 敷 入 モ、シキ ト ヨ ム 也  
 一 百 城 ト モ 書 也 V  
 一 マ モ タ、シキ

立シ只面目シキ也

一サウサウシク 寂(❀)寞ト書 閑ヲモヨムサウサシキ也サヒシキ

也  
一スカスカ（スカスカの傍註「清ノ字也」）トモマイラセ給ハ

清ノ字ヲサハヤカ也トヨム間サハサハト臆テモマイラセ給ハヌ

云義也 一玉ノアリカ。在所ト書勾ナトノアリカハ香也仍アリカト

讀ヘシ  
一トノ申  
宿申ハ夜行成(マ)ヨリ子時(※)マテハ左近司ノ

役(❦)也系灯ヨリ卯時(❦)マテハ右近司役(❦)也一ヨルノヲト、清涼

一カイトホシ  
終夜火ヲケタヌ也神鹽守護ノタメ也  
一ヒタ

フル 敢死ト書一切トモ書又求ノ字一ヲモヨム又頼ノ字ヲモヨム只

一ヘント云心也  
一 女御ハ  
スコシ后ヨリサカリタル也  
一 メテ

タシ  
可感ト書  
一ミサホ  
操ト書心操  
入ユ、ロハセト云ム、ミ

サ  
ホ  
ツ  
ク  
ル  
ト  
ハ  
情  
識  
ヲ  
立  
タ  
ル  
心  
也

一  
ス  
ケ  
ナ  
ウ  
ハ  
無  
人  
望  
ト  
云  
々

一

コキ  
弘徽殿  
一ノワキタ・チテ  
一靱負ノ命婦入左右衛門ノ佐ナト也V

一 嫖寡ハ六十以上ニテ無妻ヲ嫖ト云五十以上ニテ無夫ヲ寡ト云V

一孤<sup>コトク</sup>獨<sup>ク</sup>ハ十六以上ニテ無父ヲ孤ト云六十以上ニテ無子ヲ獨ト云V

一イワケナキタイシヤウシ 稚ト書ヲサナキ也 一アサカレイ 朝餉ト書朝ノ俵

御也 一大床子 タテシヤシ ヒルノ御膳也 一ソコラ サハメコト 幾等ト書多キ義也

サ、メク 万葉ニハ耳言ト書テサ、ヤキコト、ヨム也

御ヲハ祖母也 一フミハシメ 七歳読書始也 村上天皇承平三年

二月廿二日一条院寛和二年十二月八日以上七歳文始ノ例也御註考

一ナマメク 最媚卜書 一鴻臚館ハ海ノ声ハ遠ク聞ユ臚

伝ル心也、異国ノ申言ヲ此館ニテ聞テ可奏之間如此名付也。タクヒト

カシコキハ才学也又倭ノ字ヲモ讀是ハ本書ノ權ニ也一凡位ノ七ツヤ

りがなタク(マコ)はタク)日本紀ニッポンキ藤壺<sup>(マコ)</sup>フジウラノ升香舎<sup>(マコ)</sup>ノボリカウヤノ香室<sup>(マコ)</sup>ノボロムラノノ疑華金<sup>(マコ)</sup>ギョウワキン

舍<sup>ウケ</sup>ノ以上貴女ノ候スル所也ツラナクハ桐壺<sup>トウコ</sup>ニ入<sup>イリ</sup>テ、景舎<sup>キョウサ</sup>ノ中<sup>ナカ</sup>ニ入<sup>イリ</sup>テ、

ヱ以上藤女房候スル所也  
 霍鳴壺③ハ襲方舎ノ一ツ  
 只事

ノ  
一 ヌハ字也ノ又無礼トモ書  
一 ラウタケイトヲシ

也∨  
一 ナメシハ輕字也∨又無礼トモ書  
一 ラウタケ イトヲシ

也 一ニケナウハ似タル氣無也 一キヒワ 稚ト書ヲサナキ也  
一ウツクシキ 万ニハ愛常ト書 一ソヒフシハ遊仙屈ニハ横陳ト書  
元服ノ夜ハソヒフシニ女マイル事也 一カモスルハ釀ノ字也カ  
ウシ也米ヲカヒサセテ酒ニツクル也応神天皇御時ヨリ始也 一ア  
セタル 色ノカハリ損スル也又庭ノ家ノ池ナトニテハアレタル義也  
一人ノ家ニハ必三徑アルヘシ門井東司此三ノ道也 荒哉三徑  
菊 陶淵明カ云也 一コモノ 籠野也菓子等也 一トシキハ屯食  
ト書ツミ飯ト云物下屬ニタフイヒナリ 一致仕大臣(ふりがな  
シハシ)ハ官ヲ辞シテ後尙其職ニ仕ルヲ致仕ト云也 一ニナウ  
無二也 一池ノ心ト云々 一ウシロメタウハ影護ト書テカケノコト  
クニマモルトヨム也

ニはき木 至徳三八五

一スキ事ハ数奇也 一マメタチ給ケル 斂色 遊仙屈ニ書之  
一ナヨヒ 麗字也ヤハラカナナル躰也 一カタノ、少将 一説業平  
一説英明 一ナカ雨ハレマナキニハ三日降ヲ霖ト云 一宮腹ノ中  
將トハ葵上ノ兄頭中将也 一ラサ 日本紀誇了ト書也粗トモ漸  
トモ凡トモ云心也 一ヲノカシ、各競 一エンスレハ 怨ウラム  
ル也 一カタワナル 頑心也 一ヲホソラハ大都トモ大惣トモ書也  
一ニノ町 ツキノ町也 一ソコハ足下ト書チト人ヲサケシムル心也  
一足下 恣秦始皇本紀ニ書之ハ十二卷也 一テハシリカキ 筆  
ヲ草ニ書也 一ヲトシメ 人ヲイヒクタシタル也 一ヲヒサキ 尖  
スルト也トモヨム女ノヲサナキ事ヲ云也 一カタカト 八片才ト書  
日本紀心ノカトナトニモ才学也 一ヲホトキ 穩字也 一ケハイ

形勢也 一クライミシカクトハ位ノイヤシキ也 一ナヲ人諸大夫  
也 一タツキ 便又縁ノ字ヲモ 一カ、ツラヒ 一カケシロフタル也  
一ケシウハアラヌトハ入下スシウハアラヌト云心也又ハ恠ノ心モア  
ルヘシ 一ヒサンキハ非參議ト書何宦(マ)ニテモ前宦(マ)事也  
一カハラカナリ サハヤカナル也 一ハフカス 不放埒也 一ニキ  
ハウ 簪字也ニキヤカニト云々 一セウト 女ノ兄弟何ヲモ云也  
一ナヨ、カナナル ナエトシタル也 一御ホカケハ側影ト書日本  
紀火影トモ書ホノカナル御影也 一アフサキルサハアチスルモコ  
スルモタラワヌト云也 一適 毛詩ニ書之 一コトカ中ニ 異  
中書之 一ヒサウナキ 無美相 一イエトウシ 主人妻ト書 遊仙  
屈 一ヲホヤケハラタ、シキハ公事ニ腹立也 一アハツカニ アハ  
アハシキ也 一コメキテ フルメキテ也ハ莊子云君子交淡如水小人  
交甘如醴 醴酒トモ 一ユヘヨシ 由トヨシト也 一海浜 一フ  
ルコタチ 古後達ト書古也女ハ夫ノ後ニアル間後達ト云也 一ヒソ  
ム 嘖威 眉ヲ 一ウナツクハ領狀漢書又顔許 准南子又領許  
遊仙屈 一心ヤマシ 心勞也 一ヒ、チ居タリハ輕妝(居タ  
リ カロシ)シク居タル也 一サレハミタル 宿(ふりがなサハサ)  
宿老日本紀ユカミカタフキタル躰也 一唐国ノハケシキケタモノ  
云々 只ヲソロシキケタモノ也 一スクヨカ 健字也 一心シラヒ  
只心仕也 一ツラツエ 支 一マホ 真帆 マコトシキ心也 一  
イヒソシ 言殺(ト書)イヒコロス也 一カタミ 相互也 一  
テウカク 調樂試樂也 一サウシミハナシ 正員ナシト云也 一消  
息ハ日本紀ノ消息ハ白氏文集 一ヒタヤコモリハ直隱ト書タ、コ  
モリニ籠事ヲ云也 一ツナヒキ 妬紀ニ云嫉妬ノ女夫ノ足ニ綱ヲ

ツケテ外へ遣或時此綱ヲ引時羊ニ付テ来女仰天シテ占時(※)博士云  
 アマリニ嫉妬深ニヨリテ夫ハ失テ羊来レリト云時(※)愁歎ス其時(※)  
 博士向後嫉妬ノ心ヲヤメハ本夫可来之由申ス時(※)様々誓言スル時  
 (※)夫来了此謂云々 一夕榮ハ光ヲモハヘトヨム又無見トモ書日本  
 紀▽ 一池(※)ノ水影ト云々 一トハカリシハシ也 一ヨクナル和  
 琴 能鳴調ト云調子也 一和琴ハ伊諾装(マ)尊作始給タリ初ハ弓六  
 張ヲナラヘテヒケケルト云々仍上総国風土記ニ神楽ノタメ弓六張ト  
 書ト云々鴨長明在之 一庭ノ紅葉コソフミワケタル跡モナケレトネ  
 タマスハネタマストハネタマシカラスル也▽ 一艶ニアヘカナル  
 ヨハシシキ躰也アヘカハアタナル心也 一イマサリトモナトセ  
 アマリカ程ニ 云心ハ橡樟七年ト云事学アリアナカチニ七年ヲカキ  
 ル事ナシ此兩(※)木ハコト木ヨリモハヤクサカタツ物ナル間其タト  
 ヘニ云也 此故ニ七年余ニハ思シランスルト云也 一シレモノ 只  
 ワロキ物也 一サスラフハ流離 日本紀 伶俜 經ニ書之▽ 一ク  
 サワイ 種字也 一ホウケツキテ 仏法ケ付テ也 一クスシカラン  
 トハハクスシト云事也▽ 一二ノ道 貧福也 一ムクツケキ  
 蠱 此字也キタナクヲソロシキ心也 一ナカハミハ天一方也フサカ  
 リノ方也▽ 一中川 京極川二条ヨリ上ヲ云也 御堂殿ト法成寺ト  
 ノ間ナル故ニ中河ト被付也所詮二条以北ヲ云也 一ナメケニヤ 無  
 礼ニヤ也 一キヨロシキ 清宜也 一ヲマシ 御座 又席 蘇席  
 布『茲』以上如此書 一中川ニハ為中 家立 柴カキ サカナモト  
 ム▽ 一ヲトナヒ 喧響ト書ハ日本紀▽ 一ムツカル 勘当ト云  
 令ニ書之一ホ、ユカミ 方曲ト書 一マウト 真人姓也 一フイニ  
 不意 心ナラス也 一シモヤ 雜舎也 一中川ニ イタツラフシ

ナヨ竹ヤリ水 一モノケ給 物承也 一サ、ヤカニハチイサキ也▽  
 細々許ハ遊仙屈▽ 一ナミシ人 次々ト書 一トウテ給 トリ  
 イテ給也 一ソ、キアケテハソ、メキアケタル也▽ 一ヨスカ 便  
 又縁 一アテ人 妙人 高貴人 一御匣(※)殿 装束スル所 一メ  
 イホク 面(※)目也 一フヨウナルサマ 不用也 一サレハトラホセ  
 トモ サラハサテアレト云心也

二並うつせみ 八十三

一カ、ツラヒハカケシロウタル也▽ 一メサマシクハ目サメタル  
 躰也▽ 冷眼ト書 一ウレタウハウレヘタキ也▽ 一タハカルハ将  
 計ト書▽ 一ツイセウセストハハ只礼ヲモセス也▽ 一コキアヤノ  
 一重カサネハコキトハ紅ノ事也▽ 一フタアキ 紫ノ濃色也 一ハ  
 ウソク アラハナル心也 一ソ、カナルハスルトナル也▽ 一サカ  
 リハ カミノサカリ所也 一サウトケハ 早遣ト書 一ネヒシテ  
 ネボケタル躰也 一カイマミハ視其私屏 日本紀 垣間見 万▽  
 一アカル、ケハイ 別也 一コタミハ 今度ハ也 一ウチミシロク  
 身動 一アエカ ヨハキ躰也 一ナヲシク ヨキ程ノ事也  
 一ヲモト侍者ト書 近習ノ人也 一ウツセミニヒタリ 右寄合也  
 一サレタル『心』ニモ ナレタル心也

二並ゆふかほ 同日

一メノト 天然ヨリ始乳母 鵜羽フキアハセスノ尊ヲ他人ノ乳ヲモ  
 テ養了是日本ノメノトノ初也 一ユモカミ 物ヲシテ ユニテ養事也  
 一ハシトミ 半薺(※) 一隠声 サキヲフ事也 一キリカケタツ物ハタ

テシトミ也シトミヤト云也▽ 一タ顔ニ八名ハ人メキテ可付之ヲシ  
ケナキ身▽ 一白キ扇ノコカシタル薰物ノ香ニシメタル也 一イト  
フヒンナル 便ナキト云也 一カタホ<sup>カタクナ</sup> 頑也 一ツキシロイメクハス  
ハ人ヲサシツキテ心得サスル也 一説月白ノアカリタル也サハ▽ト  
イハテサスカニ其心ヲ云事也▽ 一アテハカハ唯妍ト書ウツクシキ  
軀也▽ 一ヤウメイノスケ 陽明介諸國ノ介也又中少將ヲ云也源ノ  
人ノナル官也ト云々但行成ノヤウメイノスケナル上ハ源ハカリト云  
事違之由定家被申也 一ハラカラ 兄弟也男女共ニ 一シイラタツ  
褶ハシイラウハモ▽ 只裳ノ事也 一フツ、カニ 太字也 一ネ  
ヒタル ト、ノヲリタル也調行<sup>ネヒユク</sup> 一ナケノ 無也ハナイカシロ也▽  
一サフラヒワラハ 殿上童也 一中屋 中居也 一クタ▽シ 細  
研ト書 一ヲホトキテ 穩也 一ヲロチ 小蛇(※)ト書 一ヨツカヌ  
世ニナレヌ也 一エンタチ 艶立ト書 一サレタル竹ハ屈竹也ユカ  
ミタル竹也▽ 一コホ▽トナルカミ コホ▽ト雷ノナル音也  
一ミタケマウテ 御嵩詣<sup>ユクリ</sup> 一コチタシ 多シ也 一ユクリナク思ヤリ  
モナク也 『一』不意之間 卒爾<sup>ユクリ</sup> 日本紀如此書 一ケイメイシテ  
ヲトロキラキタル義也 一シモケイシ 下家司 一マカナヒ<sup>イ</sup> 饗也  
一ヲキ中川 河ノミホノ事也 一ノラ 敷也 一ヘチナウノ方 別  
ノ家也 小寢殿 一シト、ニナリテハシホ▽トヌレタル心ナリ▽  
一誰何火行<sup>ヒアヤウシ</sup> 一ナタイメムハ侍臣亥(□)ノ時(※)也▽ 一ミツワク  
ミテ罔(※)象ト書 両方ノヒサヲトカヒト一所ニカ、マリタル老ノ姿  
也 一説イサナキノミコト水神ヲウメルニ老嫗ノ形也是ヲ罔(※)象ト云  
也 一カコカニハカコ▽トカコヒタル也罔字也▽ 一サ、ヤカニ  
テ 狭々ヤカ 一カリノ御ソ カリキヌ也短裳カリキヌトヨム 旧

事本紀 一タカホニ シノヒアリキ 一フクイトクロウシテハ右近  
フクラカニテ色黒キ也▽ 一廿余日ハハツカアマリトヨム▽ 一風  
ヒヤ、カニ云々 一タカヤカナル萩ト云々 文ニ 一ワカキミ 女  
ヲモ若ヲワカ君ト云也 一ヌサハ祓麻▽道祖神ニタムケラスル也餞  
送ノ席(※)ヲハ祖席(※)ト云也道祖神ノ起黃帝ノ子遊子ト云人諸國ヲ  
アソヒアリキテ死後ニ彼道祖神ニ成也仍旅行人ヲ守也

三 若 紫 八十九

一ワラハヤミハ瘡(※)ト書キヤヘイノ事也▽ 一キタ山ハ万ニ▽  
一ナニカシ寺 鞍馬也 一シ、コラカシハシソヒラカシタル也▽  
一ヲイカ、マル 老死ト書 樂府ニ在 一サルヘキフン作テスカセ  
タテマツル 一ツ、ヲヲリ 一ナニシカシ僧都ハ覺恩僧都ヲ北山僧  
都ト号ス榮花物語ニ在▽ 一ナニカシノタケハ大峯ノ尺迦ノタケ也  
花鳥淺間嵩ト云々▽ 一ユラヒカニ 寛ノ字也ヒロキ心也 三吉野<sup>六帖</sup>  
ノ大河水ノユホヒカニアラヌ物カラ浪ノタツラン 一イトイタシハ  
カタワライタキ也▽ 一ヲクマレル 奥ノ事也 一サイツ比ハヲト  
、ヒヨリサキノ事也▽ 一井中ヒタラン 井ナカメキタル也 一ク  
ラマニ 旅ネ可付 一イヌキ 人ノ名也ハキハ公ノ心也ナニキミト  
云也▽ 昔上東門院上童ノ中ニモ此名アリ 一マミノアタリウチケ  
フリ 一ヲクラス露 ヲクヲカス也 一草ノ御薙 只草座也 櫛下  
集ニ当初ノイモキノ庭ニアマリシ草ノ薙モ今日ヤシクラン 天台大  
師御忌日ニ慈惠大師ヨミ給哥也 一北山ニ ヤリ水可付 一サカシ  
ク 進心ト書 一ヒトリスミ云々 一ス、ノケウソクニカ、ル音云  
々 一スコシシソキテ 退テ也 一サシクミニ サシヨリニ也 一

鹿<sup>春野</sup>ノタ、スミアリク 一カシコケレハ 無便ハ也 一北山ニ<sup>半イ</sup>ウツ  
ンケ 一ヒトソウ 一孫ト書 一族ノ心也 一サタスキタル<sup>半イ</sup>尖過  
タル也 (「半」に「ナカハ」とふりがな) 一ユクテノ御コトノ  
ハ ユクテハ過サマ也 一フリハヘテ ウチハヘテ也 一イマタナ  
ニハツヲタニツ、ケ侍スト云ハ色葉ノ字ヲタニツ、ケエヌト云也  
一ツキ<sup>王命婦</sup>シク 方便ト書遊仙屈ニ有 一ハナチカキ 文字一ツ  
、ヲ書事也 一ワウミヤウフト云々ハ王ハ姓也<sup>見ス</sup>四位ハ内侍命婦ハ  
五位女藏人ハ六位也 一北山ニ世カタリナキネニフシ給フ 一エナ  
ヲヌ 只モナキ也 一朱雀院ノ行幸云々 ハ後院御位スヘリテ後御  
座ノ所也<sup>見ス</sup>朱雀院 冷泉院<sup>鳥</sup>所太上天皇御座也 一アシワカノウ  
ヲ ワカノ浦也 一ソ、ロサムシ 鶏<sup>見ス</sup>ト書トリハタノ事也 一ニ  
ヨロシキハニツカウシク宜也<sup>見ス</sup> 一草ノトサシ 一カ、ルキホイ  
カ、ルマキレ也 一アツマヲスカ、キテハ和琴ヲスカ、ク也<sup>見ス</sup> 一  
モトキ<sup>負</sup>ヲイテンハ人ニモトカレント云心也<sup>見ス</sup> 一ソハ心ナリ ソレ  
ハ心ナリ 一ヲト、殿也 一ニヒイロハ鈍<sup>見ス</sup>色ト書 ウスハナ  
タノ色也祖母ノ服ニキタル也<sup>見ス</sup> 一ヲイサキミエテ

三若紫並 するつむ花 九二

一ワカムトウリ 王家無等倫ト書 王ノ孫ノ事也ハ一説和漢通ト  
書但不用説也<sup>見ス</sup> 一貴戚臣 王ノ余流臣也 一カイヒソメ 潜<sup>ヒソメ</sup>龍  
未出ヲ潜龍ト云カ如クニ蟄居ノ躰也 一ミツノトモハ琴詩酒ノ三友  
也<sup>見ス</sup> 一スイカイ スイカイノ事也 一人ワキシ給フ 一心イラレ  
心ノモミ<sup>見ス</sup>トシタル也 一カサヤトリ 雨ヤトリ也 一ラウ<sup>見ス</sup>  
シキ 上臈シキ也 一ヨヒキ 宵居ト書 一サレクツカヘルハサレ

タルモクツカヘルモヨカラヌ躰也<sup>見ス</sup> 一エヒカ 衣被香ト書タキ物  
ノ異名也 富衣被香トモ書 イクソタヒ君カシ、マニマケヌラン  
シ、マ日本紀進退ト書 君ニ進退セラレタル心也 一説無言也 秘  
説云々 一アサエテ 浅々シキ也 一ユルヒスキニケル 油断也  
一御カエ<sup>マ</sup>ハコイヒ 粥<sup>コハイヒ</sup> 一ハヒヨクレタル 光ト書色ノヲク  
レタル也 一大ヒチリキト云々 ヒチリキニ大小「ア」リ 一サク  
ハチノフエト云々 一尺八寸笛也 但舌四寸八分也 遊仙屈ニ有  
一ヒソクヤウノモロコシノ物 色ノ濃キ茶碗<sup>見ス</sup>也 一マカテ、人々  
クフ 膳ヲ、ロスヲマカテ、ト云也 一ナイケウハウ 今ハ大トノ  
キニアリ管<sup>見ス</sup>絃者居所也 一ヒナヒタル 田舎ヒタル 一ホノクラ  
シ<sup>側イ</sup>衡黒ト書 一サラニ 色ノ白キ也 一ユルシ色 紅紫二ノ色ハ賞  
スル物ニテユルサレテキル故ニユルシ色ト云也 一フルキノカハキ  
ヌハ貂<sup>見ス</sup>音ハテウ也テンノ事也<sup>見ス</sup> 一キシキクワンノネリ出タルハ  
儀式宦<sup>マ</sup>マ<sup>マ</sup>トハ弁外記史ナトノ事也<sup>見ス</sup> 一ミチノクカミ 檀紙也與  
州ヨリスギ始タル紙也<sup>マ</sup>檀 一ツ、ミニコロモ宮 装束入宮也 今ノ  
ヒロフタハ彼宮ノ蓋也 一袖マキホサン人モアラナクニ 一ツマカケ カタ  
ハナフリソ白妙ノ袖マキホサン人モアラナクニ 一ツマカケ カタ  
ハシノ躰也 一カヤウノカイナテハカイナテハソトウハへ許ノ心也  
一梅花ノ色ノコト 如シ求子ノ哥也 神樂曲也 一カイネリ  
紅ノ色也 フクサニテ表裏紅也 一エヒソメハ蒲陶<sup>見ス</sup>ト書紫ノ最  
アサキ也<sup>見ス</sup> 一男踏歌ハ正月十四日 天平元年正月十四日始之聖武  
天皇<sup>調</sup> 一女踏歌 正月十六日同御代天平十四年正月十六日始之  
一ネヒ人ハトシヨリ女也ネヒ行調行ト書<sup>見ス</sup> 一カ、ケノ宮 ヒン  
カク具足ノ入タル物也 一ムモンノサクヲノ 無文トハ平絹ノ事也

桜ノホソナカハラサナキ上臈女房ノキル者也。桜色事表裏(※)スワウ色也面(※)ハウスク裏(※)ハコキ也。一コタイ 古代也。我ヲコソツラサヲ君カミスレトモ人ニスミツクカホノケシキカ。平仲文ソラナキノ事ニ妻カヨム也。

四 紅葉賀 九十九

一ヲモ、チ人カホノモチヤウ也。一青海波詠 小野篁作也。桂殿(※)波向レ初歳 桐楼 媚 早年 剪花梅樹下 蝶燕(※)画(※)梁ノ辺 舞者承和御時大納言良峯(マ)朝臣安世奉勅作也。一家ノコ 良家ノ子也。良家トハ攝家以下上臈ノ家也。一モロコシコモノ 樂 一イウソク 右族ト書 花族ノ心也。一イリアヤノホト 舞ニアヤトル手アリ 故ニ入アヤト云入舞ノ事也。一承香殿 シヨウキヤウ殿トヨム。一カノ若草紫ノ上ノ事也。一ソ、キキ給ヘルハハソ、メキキタル也。一ナヤラフ 追儼 鬼(※)ヲウ事也。儼ハ鬼(※)トヨム也。儼論吾ニハ此一字ヲヲニヤラウトヨム。一内宴 内裏ニテ春ノ季ニ定テ詩ノ宴アリ。但近年絶畢一サンサシ 参座元三参賀也。一二月十日 十日アマリトヨムヘシ。一ウケハシ 咒咀(※)ト云。一ユシ給フ 絃ヲユル事也。一ホソロクセリ 長保樂破事也。急ヲハカリヤスト云也。一ヲウナク 女々シキ也。一サタスクルハナカハスグル也。五十ヲ半トイヘハ五十スクルナリ。一貞スクル是モ盛スキタル也。一サモフリカタウ 難旧也。年ヨリカタキ也。一カハホリノエナラス カハホリトハ扇ノ事也。一マカハ マカフヲノ事也。一匡(※)ハ匡歟。文選云高匡(※)ハカウキヤウトマカフヲカシマカハ 眼皮也。遊仙屈ニ書之此説ヨキ也。一タ立シテナコリス、シキト云々。一カクシウハ大国ノ州名也。女ノ歌ウタウ所ノ事ヲ云也。一アツマヤハ門柱

四アルヲ四屋ト云是也。一マヤ 門柱ニアルヲマヤト云是也。

五 花宴 九十九

一南殿ハ紫宸(※)殿也。一中殿ハ清涼殿也。一タンイン給テ探韻也。一ヲクシカチニハナシロメタル 臆シタル躰也。一地下一文人ハ源氏ノ君ノ御詩ヲハ也。一ホソトノ 廂事也。秘説云々。一クルハトモ 一キコエテカヘタルモシカナトテ ハサソナトテノ心也。一ヲホロ月夜ニ扇可付桜ノ三重ノ扇ヲ両(※)方シルシニ取チカヘタル也。一カノワタリノアリサマハ葵上父。攝政太政大臣ノ事也。一カノ在明ノ人 ヲホロ月夜ノ内侍事也。一桜ノミヘカサネ 繪扇ノ両(※)方上三枚ヲ桜薄様ニテツ、ミテ色々ノ絲ニ「ノ」テ末ニアワヒムスヒヲシタル也。一明王ノ御代四代 陽成 光孝 宇多 醍醐一キヤウシヤクニ 還迹 只ヲシハカリテ考ヲ定也。考トハカシカウル也。一サカユク春ニ 一ユミケツハ結也。一結番也。一桜ノカラノ綺ハ唐綾ノ事也。一エヒソメノ下カサネハ赤色也。一ヲホキミスカタハ王姿也。宮姿ノ躰也。一フサハシカラス 不祥ト書此心也。一扇ヲトラシテカラキメヲミル サマカヘタルト云々。催馬樂哥ニ石川ト云哥 石川ノコマウトニ帯ヲトラレテカラキヒスルイカナルヲヒソヤ 花田ノ帯ノ中ハタイレタル 如此之間サマカヘタルト云々。一石川ニ扇可付

六 葵 九十五

一タミシ 考羅 カワラ共ニ卑賤在之タミシハ渡守也。カハラハ綱引也。日本紀仁德天皇卷ニ書之。一カサミ 片袂 衣ノ上ニキルウスキ物也。一人タマヒノ奥ニト云々 出車ノ奥ニ也。出車トハ女車ノ後車也。一



殿上ノセウ尉允卿 藏人將監也 一ツホサウソク市女 イチメ笠ニキヌヲキテ  
中結タルヲ云也今ノ中結ノ躰也 一ネヒユク 調行也老行也 一ヲ  
ホシウムシケン 慍ウシシ(ウレヘ也) 一本ノミヤ ト定所也 一サカキ 坂樹日本  
紀書之人龍眼木是本字也 一ウキモンノウヘ 浮線綾也 一髪ニ  
ミルフサ 一右近ノハ、 一条大宮ミル 一左近ノハ、 一条西  
洞院一モノ、ケイキスタマ イキス玉 窮鬼ミルト書遊仙屈ニ魂此物語中秀逸也  
ノ鬼ミルニ通ルヲ書ト云々タトヘハ生靈躰ノ者也 袖ヌル、恋路トカ  
ツハシリナカラ 一タケクイカキ 一ヒタフル心ハ ヒタヤフリ也  
一ウツシ心ハ現心也ウツ、ノ心也 一ケシノカ 邪氣祈時芥子香ハ芥  
子ヲ譚摩ニ焼故也 一ユスルハ ユアフル也ハ沐ノ字也 一秋ノ  
ツカサメシ京宦マ〔口〕ノ除目也 一春ノ司メシ 県召ノ除目也  
一ニハメルハニヒ色ノ事也ウスハナタ也アラニヒ色 ウスハナタ色  
也 一菊ニ文可付 一正日トハ四十九日事也 一サタトミキ  
ハケンハサタヤカナル也 一サノ物 サヤウノ物也 一アテキハ  
上東門院上竟此名アリ 一クワンサウノハカマハイロノハカマ 一  
紅ノ紫也 一ヲモヒクンシテ 思苦也 一エイマク 卷縷ケンエイ 非常或  
ハ諒闇時ミルノ事也 一子ノコノモチノ事 惟光サノコノモチヲマ  
イラスル時今日不可然アスマイラセヨト被仰云心ハ紫上ニアヒハシ  
メラル、事イヌノ日也サノ日ハ二日ニナル間イマシキニヨテ今  
日略シテアス三日ノ祝ニマイラセヨト被仰之間惟光ヤカテ心得テイ  
クツマイラセ候ヘキソト尋申ス時ミル三カ一マイラセヨト被仰其心  
ハ紫ノ上ノ年十四ニナル間十ノ上ノ数ヲ、シヘラル、ニ四文字ヲイ  
マイテ三カ一トハ被仰了三日ノ祝ノ餅ヲハ女房ノ年ノ数マイスルニ

依テ也又三盃一本ト云ハ器物三ニ盛テ膳一ニソナフルヲ云也是カ正  
説也 一カウ香コノ宮ハ薰物入ル宮也 一ケソクノ合 花足ノ合也  
一ヲサイカ(ミソカケ)シクタニシナシ 此ヲサイカ(ミソカケ)ハ長々シキ也 一ミソカケ  
柵架 衣カクルサホ也礼記云 男子不レ同二柵架ニ敢不レ懸ニ於夫ノ  
柵架一竿柵ト云

七 さ か き 九 廿

一齋宮下向ハ九月十六日御祭以前ニサタマリテ下向アル事ナリ  
一カウ順和名シクハ 神々シキ也 一黒木作事 仁德天皇ヨリ始ル 黒  
木トハ黒モンシヤウト云木也但何木モ皮ノ付タルヲハ云也 一ヒタ  
キヤ順和名〔炬舎〕に「コシヤ」とふりがな 雨ノフル時庭ニ火ヲタク  
ヘキレウ也 跣ヒタキヤ(本ノマ)鋪拾遺一シメ注連ハ日本紀 御総綱ハ旧事本紀 一  
一スノコ 縁事也 一サカキ葉ノカフカハシミトメクレハ八十氏  
人モマトキセリケリ 一ヌケイテタル 挺本拔出ト書 我トシイテタル  
ノトメテキツラン 一ヌケイテタル 挺本拔出ト書 我トシイテタル  
躰也 一チヤウフソウシ 〔長〕は「長」「奉送使」は「奉送使」  
ハ齋宮ヲ送下勅使也 一女別ヘツタウハ齋宮官女也 一別ノクシ  
ハ齋宮ノ群行ノ時主上御クシヲ都ノ方ヘ趣給ナトテナケサセ給ヲヒ  
タヒニサシテ瀬田マテヒルノヤスミニテ御下向 一八省事ハ孝徳天  
皇大化四年二月始之 一事ソキテ サシテ執セヌ心也 一フチ衣  
綾 衣 諒闇ノ時主上ハ十三日メス也十三ケ月ヲ十三日ニカヘラル  
ト云々 一トノキモノ、袋 殿上ノ宿直ノ名字ヲ書タル札ヲ入タ  
ル袋也此札ヲハ日結ト書也又一年中公事ノ上日ヲ官家ヨリ注テ執柄  
大臣家ヘ進袋草子ヲ云也上日トハ公事ノアル日ヲ云也 一弘ミル徽殿

登華<sup>(※)</sup>殿<sup>(※)</sup> 而<sup>(※)</sup>殿ハ后町ノ西ノ殿也女御更衣等ノ曹司也<sup>コロウトノハソハシ</sup>一舩<sup>コ</sup> 樓

文選ノカタチヨミ也 一イタツキキコエ給フハイタツキハイタハリ

モチアツカフ躰也<sup>ノ</sup> 一ムカヒハラ 当腹ノ事也 一ソムワウ 王

ノ孫也 真子内親王ノ仁和五年ニ齋院ニ立孫王ノ齋院ニ立事は許也

一ハラキタナキハハラクロキ也 一ヒレフス 蝶臥遊仙屈ニ書之 一

威夫人 漢高祖ノ后也 ウルハシキ后 呂后高祖死後威夫人ヲ捕テ

手足キリテ耳ヲフスヘ目ヲクシリ捨テ物イハヌ藥ヲノマセテ則ノ中

ニステ畢 一ヨキノソラ<sup>夜居</sup>御持僧也二間ニ候スル僧也 一カラノ

アサミトリノ紙 唐紙ノ淺緑ナル色也 一六十巻ト云文云々 天台

事也 一シハフルヒ人ハ薪ノタメニ木ノ葉ナトカキ集ル賤キ物ノ木

葉力キタルヲ打フルウヲ云也<sup>ノ</sup> 一又阿仏房説シハフル人云々シワ

ノヨリテ古キ人也 一クロキ御車 板車トテ服<sup>ヤハラカ</sup>者ノ乗者也イタニ

テクロシ 一露ノ心云々 一ナコヤカ 柔也 一ハラカラ 同胞日

本紀在之 一白虹日ヲツケリハ貫トヨムヘシ貫ハ属也ト後漢書

云 一月ノハナヤカナルニ云々 一御物忌始ハ持統天皇元年京師諸

寺之設<sup>鉄置</sup> 一チスノカサリ 巻物ノ上ヲツム物也竹ヲワリテアミ

タル物也 一五巻ノ日 御八講ノ中日也 一名香 仏ニ奉ル香也抹

香也 鳴神 物見車 関ノアナタ 逢坂山 心ツカヒ 五葉松<sup>イツハナ</sup> 池

<sup>(※)</sup>ノカハミ マタノモシキ人ミチノクニカミ アサナ アサミト

リノカミ 露ノ心 ウタカタリ 廿日月 コノロノ鬼<sup>(※)</sup> モノワス

レ タキ木コル 横河 アヲ馬 柳 左右コマトリニ クロキノ橋

タカサコ ウタフ サユリハウタフ ワラハヤミ 神イタウナリ

サハク 村雨ノマキレ タハフカミ 手ナラヒ

### 野 宮

一秋ノ花ヲトロヘ 松風スコク モノ、ネ 小柴カキ 大カキ

イタヤ 黒木鳥居 ヒタキヤ シメノホカ 夕月夜<sup>哥</sup> シルシノ板

サカキ<sup>返哥</sup> サカキハノ香 風ヒヤ、カニ 桂川ノ祓 アカヌワカレ

ナヲサリコト 八嶋モルクニツミ神モ心アラハアカヌワカレノ中ヲ

コトハレ<sup>返哥</sup> クニツ神ソラニコトハル中ナラハナヲサリコトヲマツヤ

タ、サン 一柳ノケシキ許ソ時ヲ忘<sup>(※)</sup>ヌ云々 漢武帝苑中ニ殖<sup>クワ</sup>二人柳

一日<sup>二</sup>二臥 三起帝<sup>ヲ</sup>拜シ奉ル躰也非情ニ心有仍人柳トナツク 一左

右ニコマトリニ云々 コマトリハエヒスカケノ事也アナタコナタヘ

一人ツ、カクル也 一シタトニ 舌ノハヤキニ也 一アハツケ ア

ハ、シキ也 一アコエ侍 過分ノ儀也又アマヘタル歟 一カルロ

ウセラル、<sup>ロウ</sup> 嘲<sup>ロウ</sup> 嘲<sup>ロウ</sup>セラル、也

八花ちる里 九二十

一サ、ヤカナル家ハチイサキ也<sup>狭々</sup> 一ツクシノ五節<sup>(※)</sup> 五節<sup>(※)</sup>舞

姫也 一花チルサトハハ中川ノアタリ也<sup>九す</sup> 一中川 二条以北也京極

一ヒタ、ケハ<sup>ミタリ</sup> 放埒ノ躰也 一入道ノ宮 藤壺<sup>(※)</sup>ノ事也 円

融院后三条関白頼忠女天祿四年三月十四日落<sup>ラクシヨク</sup> 飾 世号入道宮不限男

女出家ヲ入道ト云也 一若宮 夕霧大將 一三台 皇ノ事也上台中

合下台此三也 左右内大臣三台ニタトヘタル也此三公ト云也 一七

星七弁 ハ左右大弁左右中弁左右少弁<sup>九す</sup> 中小之間権以上是ヲ七弁

ト云也七星ニツカサトル也 一コシヲノヘテハ官位ヲ辞シテ不仕事

也▽  
一コシヲ屈タルハ当官ニテ仕ヲ云也▽  
一イチハヤキ最<sup>ニ</sup>強<sup>ニ</sup>ト書 親行説水原ニハ急速スミヤカナル心也 一身ノヲコタリ過<sup>ラコタル</sup>ノ事也非懈怠之儀也 一トハカリハ片時<sup>ニ</sup>許ノ心也 只時<sup>ニ</sup>ノ間ノ躰也▽  
一ヒタヤコモリ 直隱ト書ヤカテコモル躰也 一無文ノヲシハ平絹ノ直衣也▽  
一サスラフル 伶俚ト書漂泊ノ心也 一カスマヘ給テ人数ニシテ▽  
一ナケクシイム事 日本紀 イサナキノミコト黄泉ヘ行テユツノツマクシホトリハ一ヲヒキカキテ火ヲトホシテイサナミノミコトヲミ給フ時膿<sup>ニ</sup>沸<sup>ニ</sup>虫<sup>ハ</sup>流<sup>ハ</sup>間<sup>ニ</sup>キタナシトテコノクシヲナケラレタル其故也又木一ニ火ヲトホス忌ハ此故也 一シハ<sup>ハ</sup>属<sup>マ</sup>ハ数也ト論言ニ有アマタノ義也 一券<sup>ニ</sup>タツモノナトハ文書メキタル物也▽  
一ミナハ 水ノ泡又水ノメクル所也 一カウフリ給ルハ叙爵也▽  
一ツカサトケテ 解官也 一官ニ三解有<sup>ニ</sup>葬<sup>ニ</sup>解<sup>ニ</sup>病<sup>ニ</sup>解<sup>ニ</sup>八<sup>ニ</sup>雲<sup>ニ</sup>理解 一マカリマウシハイトマ申也辞見ト書▽  
一ヲサメミカハ<sup>ハ</sup>ヲサメミカハヲシナヘテ下女也<sup>ハ</sup>ヲサウル下女ミカハミカハタモチト云 商<sup>ニ</sup>人也<sup>ハ</sup>則<sup>ニ</sup>長<sup>ニ</sup>女<sup>ニ</sup>行<sup>ニ</sup>幸<sup>ニ</sup>ノ跡<sup>ニ</sup>ニマイル下女也又洗女也 一日本船ノ初ハ 神武天皇御代也其後崇神天皇ノ御時伊豆國ニ仰テ船ヲツクラシム長十丈是ヲ枯野ト名付 一ワタノヘ大工ノ岸ハハロウノキシノ事也▽  
一カラ國ニ名ヲノコシケル人ヨリモハ是ハ屈原カ事ノタトヘ也▽  
一カトリノ御ナヲシハ只絹ノ装束也▽  
タ、キヌノ直衣也 一シラカサネハ更衣時タ、キヌノ白キカサネ也▽  
一スマノ長雨 四月也 一モヨホシクサ 一屏風表裏ノ事ハ宇多ハスワウノ方ヲ面<sup>ニ</sup>トス 西宮ハ絵カキタル方ヲ面<sup>ニ</sup>トス▽  
一チエタツネノリハ絵カキ両<sup>ニ</sup>人ノ名也▽  
一ツクリエトハ下絵也 一白沢王ハ朝ニ三千夕ニ三百ノ鬼<sup>ニ</sup>ヲ食スル王也▽  
一シロキアヤ 直衣

也 一シラン色ハ指貫也▽  
一トコヨ 常世 蓬萊山 一駅ノヲサニクシトラスル 駅長ニ天神筑紫ヘ御下ノ時明石ノ駅ニテ口詩ヲ給ル也書付又ヲ口詩ト云也口宣ト云カ如シ口宣ト云心ハ帝王ノ直ニ勅定アルヲ書タル也仍口宣ト云是モ書ツケサセ給ハテ御口ニテ詩ヲ被仰タル也又別ノクシヲ給ト云説モ有但異説也 一ヲホヤケノカウシハ考<sup>ニ</sup>辞ト書勘<sup>ニ</sup>当事也▽  
一鹿ヲ二世皇帝ヘ馬トテ進者ハ 趙<sup>ニ</sup>高也 一ミカトノ御ミハ后ノ御事也▽  
一ユルシ色ノキハヤカナルハ紅ニ黄ナル色ノ交タル也▽  
一タンキ 彈碁ト書 ハンハ石ヲモテ方二尺中高ニシテ將碁ノ馬ノ様ニシテ石六枚ニテハシク物也黑白二色也 一カイツモノ<sup>ニ</sup>求<sup>ニ</sup>食<sup>ニ</sup>に「アサリ」とふりがなあり<sup>ニ</sup>カツキシタル物也或海津ノ物也 一タツカナキハ無便▽  
一ヤスケナキ身 一イケルカヒアリ 一センシヤウワカリ 軟障ト書キヌノ引物也必松ヲ繪ニ書 一ヒチ笠雨 袖笠雨也 一ヲタチ花姫ハ日本武尊ノ御セ也▽

十明 石

一空ノミタレハ雲ノミタレ也▽  
一仁王經 一ヒフリハ氷降アラレフル也<sup>火燄</sup>大雨雷電日本紀▽  
一シホノヤヲアヒハ塩<sup>ニ</sup>ノ多キアヒナリ▽  
一トウテ給フハトリ出給也▽  
一カウレウ 広陵山ハ散▽  
琴ノ曲名也 一セン大王<sup>先</sup>ハ式部卿貞保親王御事也南宮ノ譜ト云是也▽  
一山フシ 非僧只山ニフシタリ野臥同 一アキ人ノ中ニテタニハ琵琶引<sup>マ</sup>ノ心也▽  
一シイソシシテ ソンシテハ殺<sup>ニ</sup>ノ字也ハ醉殺<sup>ニ</sup>ト云▽  
一ウラナレタル 一クルミ色ノ紙ハウラハ白ヲモテハクルミ色ノ紙ハウスカウノ色也後拾遺ニ有▽  
一宣旨カキ 仰カキ也 一御藥ノ事ハ天子ノ御惱ヲ云也▽  
一中ノ絃ハ当調子ノ絃也

莞ノ絃ト云也V 一ミソヒツ 御衣櫃<sup>カスヨリノ外ノ</sup>也 一シホトケシトケ  
タル也 一樞大納言<sup>カスヨリノ外ノ</sup>ハ員外書權大納言ヲアマタヲカル、也V 一カ  
ソイロハ 一蟻<sup>ハ</sup>マクナキ虫ノ名也 日本紀 蚊ノ如ナル空ニ多キ  
物也目前ニカロくシキ振舞V

十一 みほつくし 十三

一サヤカニハ清ト書サタカナル心也V 一アヒナクハ無愛ウレシ  
キ事ニ真実ウレシク也V 一大キサキハコキ殿ノ事也V 一令外ノ  
官 内大臣中納言以下也 一シロカミヲ恥<sup>ス</sup> 一御ハカシ 三条院  
皇女禎子ノ生レ給フ 陽明門院時内裏ヨリ御太刀ヲ被引女子ニ引此  
礼也<sup>例敷</sup> 一コモチノ君ハ明石ノ上也V 一イカニアタル<sup>五十口</sup> 一ミフ給セ  
給フハ封戸也V 太政天皇二千戸三后千五百戸 太皇太后宮 皇太  
后宮 皇后宮 以上三后也 帝ノ嫡妃<sup>左傳</sup>ヲ皇后ト云帝ノ母ヲ皇太后ト  
云 帝ノ祖母ヲ太皇太后宮ト云 一タハハシキ<sup>イックシキ</sup> 嚴重ノ心也 一楽  
人トヲツラ 一紫スソコノモトユヒ カタ端ノ濃色也 一ワラハ随  
身ハ童躰隨身也 花族ノ儀也V 一チコ君 明石ノ中宮也 一アソ  
ヒ共 遊女也 一カウくシキ 神々シキ也 一ヒマアル 中ノワ  
ロキラ云也

十一 ミヲ尽ノ並  
よもぎふ

一ソコソハ 其<sup>レ</sup>コソハ 一宗廟之器云不<sup>ウラニ</sup> 礼記有之 一ヲ  
ナシキ法師ハ木法師也木スクナル心也V 一アケマキ<sup>總角</sup> 十五六年齡  
ノ者ヲ云也 一フヨウノモノ 不用物也 一ハコヤノトシカラモリ  
カクヤヒメハ以上物語ノ名也V 一カンヤ紙 紙屋川繪旨書黒紙也

平野北野間ニ有川也 一ナヲくシキ チト下品ノ人也 直人也  
一コチタキ ヒロキ躰也<sup>エンシイ</sup> 一ウチヒ ノロくシキ心也 一ツイエ  
タリ 損タル心也 一クノエカウハ薫<sup>薰衣香</sup>ノ物名也黒方トモ云只タキ物  
ノ惣名也V 一玉カツラハ女ノ簪<sup>簪</sup>ヲサシノ玉ヲ云 又カツラヲ  
モ云也V 一ムトクナル 無徳也 一タウコホタル 顔升子隣ノ人ノ妻  
来時家ヲ風ニ吹破レテ我家ヲコホチタキアカクシテ居タリ人ニウタ  
カハレシノタメ也 一堂 両<sup>※</sup>音也ハニコル時<sup>※</sup>ハ仏閣ヲ書スム  
時ハ俗人ノ家也V 一イタカキ ハタ板也 一チカキシメノ程 領  
シタル所也

十一 ミヲ尽ノ並二  
せ き 屋

一セキイル 関ニ入也ハ常陸ヨリ上ノ時V 一アヲハ襖 狩衣ノ  
短キ物也旅ノ御装束也V 一セキムカヒ<sup>キ</sup> 関マテノ御迎也 一ワク  
ラハ タマサカトカク 一サカシラ 進止ト書

十二 繪 合 十九

一前齋宮 秋好中宮 六条御息所女 一前齋宮入内例事 元正天皇  
御時井上内親王ハ聖武天皇女V養老五年齋宮タリ後ニ光仁天皇后ニ  
成給事ノ始也 一中宮 藤壺<sup>※</sup> 一大殿ハ 源氏 一院トハ 朱雀院也  
一ウチミタレノ宮ハ中箱ト書女房ノ具足入宮也V 一百フノ外ハ百  
歩也遠ク句也V 一ココロハハ心葉銀ヲモテ桜ヲウチ物ニシタル也  
菊ヲモウツ大嘗会小忌ヲ着スル時冠ニサス物也V 一シユリノサイ  
シヤウ 修<sup>※</sup>理大夫參議ヲ兼スル也此礼橋常主在原友于<sup>トモユキ</sup> 一アエカ  
ナル 物ヨハキ躰也 一ココロハヘ 日本紀意見ト書 一イタツキカ  
マシ イツキカシツカマシ也寵又勞ヲモ書 一ヒメテ 秘シテ也

一涙ヲシム云々 一梅ツホハ 秋好中宮也 一コキ殿ハ 榊中納言  
女也 一ウツホノトシカケハ物語名也源順作料(※) 一ヒネスミ  
神異經ニ曰 唐ニ南方ニ大山アリ長サ三十里屋夜火アリ風雨ニモ不  
滅火中ニネスミアリ重サ百斤毛ノ長三尺此毛ヲ布ニ可為布作ルヘシ  
若不淨ナレハ火ニ焼之則淨シ号火浣布 一アヘノヲホシ 人ノ名  
也 一サイコ中將ハ業平也阿保親王ノ第五ノ御子也姓在原ナル間在  
五中將ト云也 一院ノミカトハ御位ノ後ノ院ヲ申也 一女房ノ  
サフラヒトハ 合盤所也 一センカウ 浅香也 一アヲニ、 青丹  
也 一フンツカサ 函(※)書寮也

十三 松 風 十九

一東ノ院トハ 二条ノ院ノ東ナル二司ヲ云也六条御座所也 一寢  
殿ハ 妻ノ居所也 礼記 聘『フ』ルヲ妻ト云奔レルオハ妾ト云ナ  
リ 聘ハ問也妻之言ハ齊也齊ノ心ハ夫ト居所ヲ齊スル也妾之言ハ接  
也帝王ニモマミル事ヲ不憚不齊体 一コノ若君 明石ノ中宮也  
一ハ、君ノヲウチ中務ノ宮リヤウシ給ケル大井河ノワタリニアリト  
云々 前中書王ノ小倉ノ山庄ヲナソラヘテ云ナリ 一薨表地 魯隱  
公辞官隱居所也仍日本ニモ閑居ヲハ免表地ト云也 一ケサハカシ  
サハカシキ也 一カタカケテハ人ニ被仕事也肩ヲ息ト云 一ツナ  
シニクケ 強顔ハニクキカホ也 一ハチフキイヘハ 撥扨也ハタ  
トヘハ、チハラフト云心也 一券 文書也 一タキトノ 泉殿也  
一張塞ト云者 浮木ニ乗テ天河ノ水上ヲ見極ヨト云漢武帝使也 一  
所カヘタル云々ハ大井カツラノ寄合 一晋ノ王質山ヘ薪ヲキリニ  
行ニ童子慕ヲウツ所ニ行ナツメ奥ノヤウナル物ヲ与ルヲ食テ慕ヲ見

ル程ニ柯爛也斧ノ柯クチタル事也 一山口ハシルカリケレ 山口ト  
ハ事ノ始ヲ云也伊勢造宮杣山ノ山口祭ヲ云是也 一イサラキ 小井  
ト書ハ日本紀 一ニハカオアルアルシハ饗ノ事也俄ナル饗也 一小  
鳥ヲ草ノ枝ニ付ル三所ニ三ツ、付也十ノ内一ヲトリカヒタル心也  
一木末 草ノ末ハ只草ノスエ也日本紀可秘之 一六日ノ御物イミ  
天一ノ方違也 一マウケノ物 引物也 一コンエツカサノ名高キト  
ネリ 御隨身也

(十四 薄 雲 一 卷名脱落)

一アマソキ 髪ノフカゾキ也 一アマカツハ天児人形也三歳マテ  
身ニ添テ持物也 一タスキハ襪ヲサナキ物ノウヘニカクル物也カ  
ケ帯ヤウノ物也 一サネコン 実来ト書マコトニコン也 一ヒキ  
クンシ 薰修也功ノ入タル也 一カウシナトヲ 一カウケニコトヨ  
セテ 豪家ト書ハ志(マ)記注 万人ニ超タルヲ俊ト云千人ニ超タ  
ルヲ豪ト云百人ニ超タルヲ英ト云千人アル里ヲ豪家ト云也 一大納  
言ノ後位ニツク例 光仁天皇号白壁大納言 一桓武 從五位上大學  
頭ノ後 一光孝 二品式部卿ノ後 一字多 源姓ヲ給テ侍從ニナラ  
セ給 以上臣下即位例 一門ヒロケ 蒙求于公高門事也

十五 あさかほ 十五

一モ、ソノハ一条大宮ヨリ西北ノツラ 一フツ、カ 太ノ字也  
一コチ、シクハ 無骨也 一センシ 官女也 一カミサフル 神  
宿ハ日本紀 神閑トモ書閑ハサヒタリトヨム也 鉄(※)ノサヒニハ  
衣ヲ書也 一シナトノ風ハ科戸ト書 乾ノ方ノ風也 一ヲモナク

ヲモテツレナキ也 一サラカヘリテハ今更ニ帰也 一御門守  
關人<sup>カト(コン)モリ</sup> 順和名 一ウス、キ 薄映<sup>(※)</sup>ハ衣ノスキタル也 一アクヒ  
欠伸ト書礼記 一イヒキ 喘<sup>(※)</sup>鼻 經文 鼾眠 医書 一ワラワケ  
テハ方ヲ分タル也 一フクツケカレトハ大キニ也フク／＼ト也此  
前有秘説云々 一十六をとめ 一十五

一ミソキノ日ハ 午ノ日也 一アサキニテ殿上ニ帰給フハ淺黄六  
位也緑袍ヲキル也 一ヤマトタマシヒハ和才魂<sup>(※)</sup>魄<sup>(※)</sup> 一レウ  
ノシウ 大学寮ノ試也 一ヘイシトル シヤクトル也 一ラシカイ  
モトノアルシ 儒者ノ饗也 垣下ノ饗ノ事也只庭饗也 一壁下饗ハ縁  
ノ簀子也公卿ノ座也 一ナメケナル 無礼ケナル也日本紀 一作文  
事ハ公卿ハ絶句儒者ハ四韵 一入學 初テ大学寮ニ入也 一ツト  
コモリキテ集<sup>ツト</sup>ハ日本紀 一レウシウケサスルハ史記中ニソラニヨ  
マスル卷ニアルヲ云也 一モンニンキシヤウ 一經<sup>(□)</sup>ニ通スル儒  
者<sup>(一)</sup>ト云古今ニ通スルヲ通人ト云書ヲ上ヲ奏スルヲ文人ト云能精  
思テ文ヲ纂<sup>ハシ</sup>篇章<sup>(※)</sup>ヲ連ルヲ鴻儒ト云 一クワシヤノキミハ六位ヲハ  
冠者ト云也 一シリウコト 後言ト書 一サクシリヲヨスルケタル  
鱈<sup>(※)</sup> 鱈唐人ノヲトナシキハ耳クシリヲ帶ノサキニ付也此雲井ノカ  
リノヲサナクテ夫<sup>タ</sup>ヲシタルカラヨスケタルヲ云也ヲトナコソ鱈<sup>(※)</sup>  
ヲ付ヘキニトヨソヘテ云也 一サハレ サハアレト云心也 一ワラ  
ハヘ 五節<sup>(※)</sup>童女也 一マシカ 汝カ也 一キムチカ 是モ汝カ也  
一麴塵ノ袍 山ハト色也 一ツルハミノ衣 赤白黒三色也 一カエ  
トノ 柏梁殿ト書ハ后ノ御座所也 一御タウハリ 御給也 一御  
トシミ 御年満ト書十二ミチタル也何十二テモ御賀事也

十七 玉かつら 一廿八

一潜<sup>ヒソム</sup>ハ龍ノ徳アリテ隠タルト云々人ノ才学アリテ隠タルヲ云也 一  
ヲトシアフサス<sup>タ</sup> ヲトシコホサスノ心也 一坪塊<sup>ハ</sup>アラ／＼シト  
ヨム白氏文集 一桓山之鳥四子ヲ生ス羽翌<sup>マ</sup>マ既ニ成テ將テ分離  
ス悲鳴シテ以テ相送ル是ヲ四鳥ノ別ト云也 一ネムサウハ年二正五  
九月ノ事也 一大夫ノケン 監ハ大宰府ニ大小監有ト云々 一透  
ハタミタル 一舌ハヤク訥タル躰也 一仮借<sup>ケシヤク</sup> 貞觀政要ニハナツカ  
シトヨム又氣装トモ書人ノカホノケシヤウニモ書之 一草<sup>ハ</sup>草カッ  
ラナト 一岐ハハラハウ 虫ノハウ一スヤツハラシヤトハラ也  
一ユクリカニハ思ヤリナク也ユクリナク同心也 一ハラカラ  
親々ト書万ハ 一舸<sup>ハヤフネ</sup>ハ榜敵經云世尊頂放百宝無畏光明云々 一コ  
ノチノセイシ 一ステ／＼ツ 奇捐也 一イチメ 市女也 一コシ  
五師也ハ八幡供僧官也 一八幡宮崎ニ遷座ハ正<sup>マ</sup>喜廿一年三月  
廿一日也 一セ上 軟障<sup>センシヤウ</sup> (ふりがなセハセ、シハシ) 殿上ノ引物  
也白キ衣ニ松ヲ画ニ書也高松ノ軟障ト云也 一カイネリニキヌキテ  
ハ紅<sup>(□)</sup>ウス色裳ニキヌキテ也 一ノシヒトヘ練タルヒトヘノキ  
ヌ也 一藤原ノルリ君 玉カツラノヲサナ名也 一コ<sup>(□)</sup>マカヘル  
若返ト書ハ万 一玉カツラ 四歳ニテ九州ヘ下テ廿一ニテ上畢  
一御アシマイリハ御足洗ニ也 一御クシケ殿ハ天子ノ前ノ人モ装  
束シタル所也 一リウシノ人 一ヲウナニ成マテハ老ニナルマ、  
テ也 一イキマキシ イカリタル躰也 一今ヤウ色 紅也 一淺  
花田ノカイフノ文ハハナタニ大波ヲ織タル也 一クチナシノ御ソ  
ユルシ色ナルソヘテト云々 禁色ユルサル、事也ユルサル、ト云ハ

綾ヲユルサル、事也クチナシニ綾ヲ重タル衣也 一アウヨリテ 奥  
ヘヨリテ也昔様ノ躰也 一マトキハナレヌミモシソカシ 身ソカシ  
也但三文字ヲカシト云説ヨキ也

十七並一 は つ ね 正 廿

一年立カヘルト云々人跡ヘ帰ルニハ非ス只年改テ春ノ来也 一  
ウチケフリトハ人アナカチ煙ニアラスト、クモリタル躰也 一ハ  
カタメノイハヒ人口ノハニアラスト年齒ノ事也 一人々マイリコミ  
テト云々 一ウヘトハ 紫ノ上ノ事也 一エナラヌトハ 艶ナル也  
ヨキ事也 一フトコロテ人懷ヘ引入手也 一コトフキ人言吹日本  
紀寿文選祝言也イワイ事也 一サンサ 参座参賀也 一ウイ  
コトナラフ 初テ琴習也 一カラノトウキヤウキン 唐東京錦也ス  
クレタル錦也 一シ、ウラクエラカシ 薰物ノ方也 一エヒカウ人絶  
衣香薰物ノ方名也一説麝香ノ異名也 一サハラカナル 髪ノウス  
キ躰也 一ケヤケシ人尤好色トモ書面白キ物ノスコシケウトキ物ヲ  
云也惣シテチト事スキタルヲ云也 一リンシカク 攝政関白公卿  
ナトヲ集テ大饗ヲモラナスヲ云也朱器饗ト云也 一イウソク 右族  
也クワソクノ心也物シリノ有識ニハアラスト 一コノトノ 催馬楽ノ  
名也 一ワカ、ミ 若髮也 一フルキノカハキヌ テン皮也貂此字  
ヲフルキトヨム也 一ミツムマヤニテ云々 水駅ニハ路ノ程サタマ  
レル間饗ヲ用意シタレトモ不食也仍饗応ニアフヲハ飯駅ト云饗応セ  
サルヲハ水駅ニアフト云也 一シラカサネ 凡ハ夏ノ物也是ハ袍也  
ノ青ニ白キヲ重タルヲ云也 男踏歌時事正月十四日也 一カサシ  
ノワタ 綿ヲ以テ花ヲ作テ冠ノ額ニサス縞巾子ノ冠ト云也 一カ

ヨレルスカタ 舞ノ袖カヘス躰也 一ウルハシキ袋トモシテヒメラ  
カセ給フ云々 琴琵琶袋ニ入テ秘シ並也琴琵琶ノ袋錦也

十七並二 こ て ふ 十 廿八

一アヤメモシラヌ云々人黒白ヲモシラヌト云心也 一カヘリ声  
律也一七世ノ孫ニ逢ト云事ノ起リ漢名帝時永平十五年劉晨阮肇  
二人天台山ヘ藥ヲ尋ニ入時道ニ迷テ飢ニノソム時桃ヲ見付テ食ス則  
力ヲ得テ山谷ヲ一里許行時仙女ニ合テ夫婦ト成テ半年許過畢然トモ  
旧里ヘ帰タカル間仙女道ヲシヘテカヘシ畢半年許過ルと思フ処ニ  
七世ノ孫ニ合云々は源氏ノ巻ノ事ニアラスト 一サウトキ 早速ト  
書ハヤキ也 一ヒノ御ヨソヒ 緋ノ装束也 一ヒラハリ 平張ト書  
樂屋ノ棟モナキ上ニマムヲハリタルヲ云也 一アクララメシト云  
々 幄ト書布ニテシタルマンノ事也 一コシサシ 腰差ト書足ノ絹  
也巻絹ノ事也 一恋ノ山 只恋ノ事也 一クシノタウレ人孔子人ニ  
ツメラレタル事ノタトヘ也 一メシウト 召人ト書ハヲモヒ人ノ  
事也 一ワカ、エテ云々 若鶏冠木ト書

十七並三 ほ た る 十一 三

一ワラ、カニ ヤハラカニ也 一ウスキカタニ云々 凡張ノ帷ハ  
重ナル物也ウラノカタ也表ハ厚キ綾中ハ只衣也裏ハケンモンシ  
ヤ也 一アノコト 如案也 一メヲヤタチテ 母メキテノ心也 一ク  
スタマ 藥玉ト書続命縷ト云也又靈絲ト云又綵絲ト云只命ヲノフル  
祝事ニスル也内裏ニハ糸所ヨリ藥玉ヲ献ス去年九月九日菊花茱  
萸ヲ撒シテ藥玉取替テ九月マテ並之夜ノヲト、ノ御張ノ東ノ柱

ニ付之也 一褐<sup>カチ</sup>ノ裾<sup>シリ</sup>(<sup>キヨ</sup>) 一菖蒲重 表ハ青裏<sup>(※)</sup>ハ白 一大キミケシキ  
王ノ躰也大ヤウナル躰也 一ニホ鳥ニカケヲナラフルワカコマハ云  
々ワカコマトハコモ也コマニソヘタル也 一コノ物カタリハコハ  
古也フルキ物語也<sup>点</sup> 一ミソカ心 ヒソカ心也 一ウツ、ノ人ハ今  
現在ノ人也<sup>点</sup> 一テンツカレ給フ 人ニワロキ物トイワレ給フ也  
一ハラキタナキ 腹黒キ也

十七並四 とこなつ 十二三

一ツリト<sup>釣殿</sup>ノハ六条院也今万寿寺也<sup>イシフシ</sup> 一西川 桂川也 一チカキ  
川ハ賀茂川也<sup>イシフシ</sup> 一ヒミツ 氷ノ御物ヲ水ニ入タル也 一スイハ  
ン 水ツケノ飯也 一水ノ上モムトクナル 只無徳也無益也 一ム  
ライノツミ 無礼ノトカ也 一ケソンハ家損<sup>フクツケキ人</sup> 家ノキスナルヘキ  
ト云心也 フクツケキ欲<sup>(※)</sup>ノフカキ也<sup>フクツケキ人</sup> 一「食生遊仙屈有 一次第  
ミタラヌヲハ 鴈烈<sup>(マ)</sup>ト云鴈ハ兄ヨリサキニハ行ヌ故ニツラヲミ  
タラヌト云也 ロウシ給フ 嘲哂スル也 一シホウナル 実法也  
一スカ、キ 和琴カキナラス也 一コトツヒ 琴粒ハヒキタル躰也  
只其姿也<sup>イテ</sup> ヲトサイ ヲトツキ是モ皆其姿也以上和琴ノ事也コト  
サキハハチ也鯨ノ鬚ニテスル也 一ヌキカハ云々 催馬樂ノ哥也<sup>イテ</sup>  
一<sup>シテ</sup>庄<sup>(※)</sup> 賊イテ日本紀書之ハ物ヲコフニイテヤナト云事也<sup>シヨウ</sup> ヲカウサク  
遺迹也 一<sup>シヨウ</sup>磯<sup>(ウツ、ホ)</sup> 水無瀬ニライテ 手跡ノアシキ事ヲ云 一ヌル、カ  
ハサノミ急ニモナク也人ノ心ノヌルキ也<sup>テ</sup> 一テウタヌトハ 無心  
之心也同掌日本紀 一ヲホミヲホツホ 大小便ノマロナト様ノ物也  
一ヲコメ給フ ヲコツク也 一テンカチニ 真名カチニ也 一ヘニ

面<sup>メン</sup>ノ子<sup>シノ</sup>カホツキ<sup>シ</sup> 在<sup>シ</sup>再<sup>セント</sup>遊仙屈<sup>メニヤカニナリ</sup> 荏油<sup>エ</sup>シホル

十七並五 かゝり火 十二三

一ウチマツハ松炬ト書 只タイマツノ事也<sup>コジ</sup> 一頭中將ハカシハ  
木也<sup>コジ</sup> 一源中將 夕霧<sup>(※)</sup>也 巾子<sup>コジ</sup> 綬纓<sup>ライカケエイ</sup>(<sup>スイ</sup>)

十七並六 野 分 十一九

一イロクサ 色種也 一クロキ<sup>黒木</sup> アカキハ花鳥皮ヲムキタル木也<sup>ケツル</sup>  
ト云々<sup>櫻</sup> 一ナタ、ル 名ニ立也 一サトキシ給フ 里居也 一カハ  
サクラ 又朱桜ト書 一クタニ 苦胆リシタウハ一名<sup>梅</sup> 又岩藤也  
一風コソケニイハホモ吹アケツヘキ 史記高羽本紀大風西北ヨリ起  
テ<sup>(リ)</sup> 木ヲ折屋ヲ放チ沙石ヲ上ク 一ヲト、ノカワラ 殿ノ上ノ  
瓦也大臣ナラテモ殿ヲト、ト云也 一ムラサメ 白雨ト書楊氏  
(※)漢語抄ニ書琵琶引<sup>(マ)</sup>ニハ急雨ト書 一ホノ、 会明ト書  
一ヲ、シキ 雄壯ト書<sup>サウ</sup>ハ日本紀 ヲトコ、シキ也<sup>サウ</sup> 一ムシノコ  
虫籠也 一アサケノスカタハ万<sup>サウ</sup> 朝明形ト書 一リンタウハ本  
草和名エヤミ草同苦菜ニカナ<sup>ホウツキ</sup> 一イトイタシ イタシハヨクシタ  
ル也 一ホウツキ 酸醬ト書<sup>ホウツキ</sup>又洛神珠ハ順和名<sup>ホウツキ</sup> 赤酸醬ト書<sup>(日本紀)</sup>ハア  
カカ、チトモヨム<sup>花</sup> 一シヘ 帶<sup>ホツ</sup> 一カラノケモンレウ 花ノ文ノ  
唐綾也 一カミ一マキ一重也 一無復風塵<sup>(※)</sup> ハ本不見<sup>マタサワキナシ</sup> 日本紀

(未完)